

令和6年度 学校評価(年度末) 令和6年12月実施

【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

※評価欄:水色網掛け…前期よりUP 桃色網掛け…前期よりDOWN

※「4」「3」のポイント色…前期に比べて 10%以上UP (青色) 10%以上DOWN (赤色)

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	期	評価資料	アンケート結果(%)								
							4	3	2	1					
①確かな学力の定着向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようとしている。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇アンケートの結果から、教職員、児童、保護者のほとんどが肯定的に評価している。また、実際の単元テストの平均を見ると、国語科は1.7ポイント上がり、算数科は6ポイント下がっている。算数科については、学習内容の難易度が上がるにつれて正答率が下がっているのではないかと考えられる。また、既習内容を忘れてしまい、解けなくなることも多い。テストのための勉強ではなく、生活の中で生かし、使える力を身に付けさせることが課題である。  ◆土台となる基礎・基本の確実な定着のために、既習内容を繰り返し解いたり、漢字を文章の中で正しく使ったりさせる。また、児童にとって必然性のある課題を設定するなど、進んで学習に取り組めるような工夫をしていく。	前期	教職員アンケート3-①②	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%					
					前期	児童アンケート⑤⑥⑦	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%					
					前期	保護者アンケート⑩	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%					
					後期	教職員アンケート3-①②	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%					
					後期	児童アンケート⑤⑥⑦	50.0%	45.8%	4.2%	0.0%					
					後期	保護者アンケート⑩	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%					
					肯定率平均→ 98.6%										
					国語、算数の単元テスト平均		国語		算数						
					中間期		80.2		83.1						
					後期		81.9		77.1						
②基本的な学習習慣を確立する。	ICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を高めたり、成績処理を効率よく行ったりしている。 ※教職員・児童の80%以上が肯定	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇教職員の肯定率は目標値の80%以上を維持しているが、前期と比べると下がっている。児童の学習意欲を高められたか、読解力や表現力の向上が図れたかを振り返ると、できていない部分が多いと考えた結果ではないか。  ◆2学期までと同様に週2回の朝学習の時間には、読解力や表現力の育成を図る。読解力向上のために文法や語彙の習得を目指す。表現力を高めるために、いろいろな表現に触れる機会を増やす。ロールモデルを提示し、より良い表現の仕方を教える。	前期	教職員アンケート3-⑦	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%					
					後期	教職員アンケート3-⑦	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%					
					肯定率平均→ 83.3%										
					前期	教職員アンケート3-③	66.6%	16.7%	16.7%	0.0%					
					前期	児童アンケート⑧	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%					
					後期	教職員アンケート3-③	66.6%	16.7%	16.7%	0.0%					
					後期	児童アンケート⑧	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%					
					肯定率平均→ 91.7%										
					③確かな学力の定着・向上	宿題を含む家庭学習を、低学年30分、中学年40分、高学年60分程度の習慣が身に付いている。 ※教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力。 ※教職員の80%以上が肯定	B	◇前期と比べると、教職員と児童の肯定率が下がり、保護者の肯定率は上がっている。しかし、保護者の肯定率は60%のため、あまり変化がないのではないかと考えられる。また、ゲームや動画視聴を優先させる様子が普段の児童の言動からうかがえる。  ◆根本的な意識の改革が必要だと考える。自学自習の意義や大切さを再度確認し、家庭学習に取り組む姿勢の改善を図る。保護者と協力・連携し、家庭に帰ってからの時間の使い方を考えさせたり、実行したりする必要がある。	前期	教職員アンケート3-⑤	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
										前期	児童アンケート⑦⑩	49.9%	43.8%	6.3%	0.0%
前期	保護者アンケート③④	0.0%	50.0%	10.0%						40.0%					
後期	教職員アンケート3-⑤	50.0%	33.3%	16.7%						0.0%					
後期	児童アンケート⑦⑩	37.5%	50.0%	12.5%						0.0%					
後期	保護者アンケート③④	10.0%	50.0%	40.0%						0.0%					
肯定率平均→ 76.9%															
学校運営協議会所見	①確かな学力の定着向上に努める。 ○児童数が少ない分、個々への指導が行き届いていると思うが、同学年間の競争心とか刺激が少ない、あるいは無い分、意欲に欠ける面もあるのではないかなと思う。その分、ICT教材等の活用により、代替効果もあるかなと思う。 ○保護者対象のアンケート⑩(別紙参照)で、「基礎学力を身に付けさせるための適切な指導」の肯定回答が、前期40%から60%と向上した。学校の取組が保護者に評価されたと考える。引き続き児童の課題設定など、効果的な指導を期待する。	学校の対応	○少人数の強みを生かし、授業中、作業や実験・観察等も含め、ほぼマンツーマンでの指導となっているが、「やりっぱなし」「言っぱなし」にならないよう、まとめの時間を必ず確保する。ただ、ご指摘のとおり同学年間の交流や切磋琢磨という面で心配が残る。今後も他校との参集の交流活動だけでなく、ICT機器を活用してオンラインの交流を積極的に進めていく。その際、授業時間の一部だけオンライン交流をする等、活用場面の適切なタイミングを考えつつ、アナログ活動(ICTを活用しない活動)の中にデジタル活動をミックスした授業展開等、様々な取組を試みる。 ○「考える力」という意味での学力を高めようとする中で、苦手な学習内容を把握し、それに必要となる適切な支援につながるよう努める。また、家庭学習と授業とのつながりを児童に明確に示したり、難しい内容をスモールステップで取り組んだりし、基礎学力の定着を目指す。 ○今後、「考える活動」の際に、実生活や既習の言葉をつなげられるような課題を設定していく。また、語彙を増やすきっかけとして、読書活動の啓発に引き続き取り組む。	前期						教職員アンケート3-⑤	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	
				前期						児童アンケート⑦⑩	49.9%	43.8%	6.3%	0.0%	
				前期						保護者アンケート③④	0.0%	50.0%	10.0%	40.0%	
				後期	教職員アンケート3-⑤	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%						
				後期	児童アンケート⑦⑩	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%						
				後期	保護者アンケート③④	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%						
				肯定率平均→ 76.9%											

【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

※評価欄:水色網掛け…前期よりUP 桃色網掛け…前期よりDOWN

※「4」「3」のポイント色…前期に比べて  
10%以上UP (青色) 10%以上DOWN (赤色)

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	期	評価資料	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
二 豊かな心の育成	③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	教育相談体制を確立して児童理解に努め、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	A	◇中間期の結果と比べて、「学校が楽しい」と感じている児童が減少している。また、「悩み事を先生に相談できるか」という問いに対して、肯定的でない児童が数名いた。児童が相談したいと思う教師への改善が必要であると考えられる。保護者の結果については、中間期では若干名の保護者が肯定的でない意見を示していたが、今回は全保護者が肯定的な意見を示した。丁寧に連絡を取り合い、対話を大切にすることで、肯定的な意見が増加したと考えられる。  ◆引き続き、全教職員が児童の成長や小さな変化に気づき、早期に生徒指導上の問題を発見・解決できるように努めたい。そのために、児童の学校生活アンケート結果や教育相談の内容を受け止め、情報を共有し、共通理解のもとで指導できる体制を整えたい。児童の善行や頑張りをきめ細かく伝え、保護者が抱える不安を共有することで、保護者や児童との信頼関係をより深めていきたい。	前期	教職員アンケート8-③	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
					前期	児童アンケート①⑩⑫⑬	68.7%	25.0%	6.3%	0.0%
					前期	保護者アンケート⑧⑨⑪⑫⑮	44.0%	40.0%	16.0%	0.0%
					前期	地域アンケート⑥	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
					後期	教職員アンケート8-③	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
					後期	児童アンケート①⑩⑫⑬	62.5%	28.1%	9.4%	0.0%
					後期	保護者アンケート⑧⑨⑪⑫⑮	64.0%	36.0%	0.0%	0.0%
					後期	地域アンケート⑥	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
						肯定率平均→	97.7%			
						子どもを見つめる会	研修会の時に毎回実施			
	④地域を活用した体験活動を充実させる。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇ぎょしょく教育や海や浜辺を美しくする活動、運動会、ふれあい集会、お正月体験教室など地域について学んだり、地域の方に学び交流したりする機会を多く確保することができた。そのため、全体として肯定回答の割合が増えたと考えられる。  ◆今後も、予定されている「ありがとう集会」や総合的な学習の時間などで地域を活用した体験活動の場を設定し、実施していく。	前期	教職員アンケート3-⑪⑥-④⑪①-⑤	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%
				前期	保護者アンケート⑭⑮	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	
				前期	地域アンケート④⑤⑧	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%	
				後期	教職員アンケート3-⑪⑥-④⑪①-⑤	42.1%	57.9%	0.0%	0.0%	
				後期	保護者アンケート⑭⑮	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
				後期	地域アンケート④⑤⑧	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	
					肯定率平均→	100.0%				
	⑤『考え』『つながり』『挑戦』し、笑顔あふれる学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、心を合わせて頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格を目指し、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習や宿題の提出を行う。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇児童、保護者共に肯定回答が100%であるが、教職員の肯定回答は、94.5%に下がっている。全体的に見ると98.1%が肯定評価であり、A評価となる。 ◇教職員においては、個に応じた具体的な手立てを工夫しながら、基礎学力の確実な定着に努めている。その反面、家庭学習習慣を身に付けさせる項目では、2の回答が見られた。児童においては、漢字や計算力が身に付くよう工夫して教えてもらっていると感じている人数が多いが、校内漢字・算数検定の結果からは、十分身に付いていない児童も見られる。保護者においては、基礎学力定着のための適切な指導に対して、肯定評価が100%であった。以上のことから、児童の基礎学力は向上しているが、十分なレベルには達していない。  ◆家庭学習の大切さを子どもたちに理解させ、自ら進んで取り組めるよう、少人数の強みを生かした個に応じたきめ細かな指導・授業と家庭学習をつなげる手立てを工夫していく。	前期	教職員アンケート3-②⑤⑧	61.1%	38.9%	0.0%	0.0%
				前期	児童アンケート⑥	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
				前期	保護者アンケート⑯	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	
				後期	教職員アンケート3-②⑤⑧	55.5%	38.9%	5.6%	0.0%	
				後期	児童アンケート⑥	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	
				後期	保護者アンケート⑯	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	
					肯定率平均→	98.1%				
		児童・教職員が互いのことを尊重し、認め合う関係づくりをする。また、感謝の言葉を発し合ったり、「ありがとうの木」活動の充実を図ったりして、自己肯定感を高める。 ※児童・教職員の100%が肯定	B	◇中間期と比べて、「考える、つながる、チャレンジ」の気持ちを持って生活した(児童アンケート④)と回答した児童が減っているが、上学年と下学年の児童が仲良く関わり、友達同士で教え合い支え合う姿が見られる。ただ、人のために積極的に動くなどのボランティア精神の向上は、十分とは言えない。  ◆誰にどのような形でお世話になっているのかを児童に具体的に伝え、感謝の気持ちを感じさせ、感謝の気持ちの表し方も考えさせたい。人にしてもらうことに感謝し、様々な場面で支えてもらっていることに気付かせることで、相手の気持ちを考えたり、感謝の気持ちを行動に移したりすることができる児童の育成に、地域・保護者と協力して取り組む必要がある。	前	教職員アンケート1-③⑤	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
				前	児童アンケート④	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
				後	教職員アンケート1-③⑤	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	
				後	児童アンケート④	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	
					肯定率平均→	87.5%				
	学校運営協議会 所見	③生徒指導の徹底と健全育成に努める。 ○「学校は楽しいですか(別紙資料 児童アンケート①)」の肯定回答の減少が気になる。引き続き児童の目線に立った学校活動を行っていただきたい。 ④地域を活用した体験活動を充実させる。 ○地域とつながっていることはうれしい。 ⑤『考え』『つながり』『挑戦』し、笑顔あふれる学校風土を醸成する。 ○「ありがとう」の感謝の気持ちも大切だが、「学校が楽しい」場所であり、皆が生き生きと笑顔で過ごせる日々であってほしいと願う。 ○児童アンケート④(別紙参照)で、「自分で考える、つながる、チャレンジの気持ちを持っての生活」の肯定回答が、前期62.5%から25.0%と減ったことから、児童の健全な育成につながる取組に期待する。	学校の 対応	○「学校が楽しいですか」という児童のアンケート結果は、アンケートを行った時期も影響していると考えられる。考察に出ているもう一つの項目「悩み事を先生に相談できるか」に対して肯定的でない児童が数名いたことも見逃せない。授業時間以外でも子どもの気持ちや思いに触れる時間を多く持つことで信頼関係を築き子どもが居心地の良い学校を目指したい。 ○今後も、地域やご家庭との交流を積極的に持ちたいと考えている。 ○子どもの言動を「直す」という意識から、子どもが気付き自らの考えで成長していけるように「ヒントや言葉かけを与える」「認め励ます」という意識を強く持って指導に関わり、「考える、つながる、チャレンジ」の気持ちを伸ばしていく。						

【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

※評価欄:水色網掛け…前期よりUP 桃色網掛け…前期よりDOWN

※「4」「3」のポイント色…前期に比べて  
10%以上UP (青色) 10%以上DOWN (赤色)

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	期	評価資料	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上、朝運動を週2回実施	A	◇体育の授業では、柔軟運動や体幹トレーニングを取り入れ、基礎体力の向上に努めた。 ◇「そう思えばそうなる(交流したトライアスリートの言葉)」を合言葉に、陸上練習に積極的に取り組んだ結果、郡陸上競技大会では、選手全員が自己ベストを出すことができ、100m走では県陸上運動記録会に出場することができた。  ◆今後も、「やればできる」という前向きな心で、自分の力を信じ、積極的に体力向上に努める児童を育てていく。 ◆マラソン大会など個人のがんばりを称賛し、児童が最後までがんばることができるように教職員全員で指導していく。		不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低	(後期) 80%	←	(前期) 70%
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりして、全校児童出席日を増やす。 ※年間全校児童出席日が150日以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇中間期と同様に肯定率は目標値を達成することができている。保健集会の実施や給食時の全体指導などにより意識づけることができた。しかし、中間期に比べ、「何に対しても、最後までがんばっていますか。」という問いに対して評価が下がった児童が数名おり、肯定率が若干下がっている。 ◇校内での感染症の流行や拡大はなく、病気による欠席はあまりなかった。  ◆インフルエンザや新型コロナウイルス感染症などが流行する時期なので、生活習慣の確立とともに感染症予防対策を家庭と連携して取り組んでいく。	前期	教職員アンケート1-②、7-①②③④	48.6%	48.7%	2.7%	0.0%
	後期	児童アンケート③⑩⑬	43.8%	56.2%	0.0%	0.0%				
						保護者アンケート⑥⑦⑫	33.3%	60.0%	0.0%	6.7%
						地域アンケート①②⑦	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
						教職員アンケート1-②、7-①②③④	48.6%	48.7%	2.7%	0.0%
						児童アンケート③⑩⑬	37.5%	56.2%	6.3%	0.0%
						保護者アンケート⑥⑦⑫	26.6%	66.7%	6.7%	0.0%
						地域アンケート①②⑦	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
						肯定率平均→	96.1%			
						全校児童出席日数	112日/150日 後期(74.7%)		53日/71日 前期(74.6%)	
	学校運営協議会 所見	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。 ○運動能力を高めることは、自信につながるのでも良いと思う。 ○先生方も共に頑張り励まし、やる気向上のご指導、素晴らしい。 ○優秀ではなく、「やればできる」自己向上心。これからも目指してほしい。 ⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。 ○アンケートの肯定回答が全体的に低いと考えます。家庭との情報共有の向上となるよう努めていただきたい。	学校の 対応	○今後も様々な運動の場で、子どもたちの自信や向上心につながるよう自己肯定感が高まる活動や支援に取り組む。中でも、職員の共通理解を今まで以上に深めるため実施計画や検討会を充実する。 ○基本的な生活習慣の定着は、学校とご家庭との連携も重要である。今後、学校保健委員会をはじめとした学校行事、保健だより等の各種通信、学校ホームページ、日ごろの学校・学級担任との連絡等、様々な手段や機会を通して、今まで以上にご家庭との連携や情報共有を深める。						
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意をもって対応するよう努めている。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇前期と同じくA評価だが、後期の今回は肯定回答が100%となった。教職員、保護者、地域の方の4の評価もすべてアップしている。運動会や学習発表会、また郡陸上大会、町音楽発表会等の対外的な行事、さらには、校外施設主催の校区別人権・同和教育懇談会や正月体験教室(注連縄づくり)等、様々な行事や活動が数多くあり、それらを通して、学校の取組を前期以上に伝えることができた結果だと考える。  ◆評価結果が向上した一因は上に述べたとおりであるが、もう一つ、前期のアンケート回答での指摘に対して丁寧に取り組んだことも挙げられる。今後も、前期・後期で頂いた意見を基に継続して取り組んでいきたい。さらには、地域や保護者の願いや思いを掴む機会が、まだまだ少ないので、来校時に無理なく意見を頂けるような工夫をしていきたい。	前期	教職員アンケート11-①③	68.7%	31.3%	0.0%	0.0%
						保護者アンケート⑩⑭⑰⑱	55.0%	40.0%	0.0%	5.0%
							地域アンケート③④⑤⑧	70.0%	22.5%	7.5%
	学校運営協議会 所見	○保護者の肯定回答が100%となっているので、素晴らしいと思う。 ○運動会や学習発表会等、子供たちの頑張りを直接、体感でき、共に楽しませていただいた。マラソン大会においては、今年度は福浦での開催となり、時間や場所が分からず応援に行けなかったとの声も聞いた。応援とか参加行事におきましては、地区放送(防災無線)等で周知していただければありがたい。 ○保護者対象アンケート⑩⑭⑰で、「開かれた学校づくり」が、前期55%から100%と大幅に向上したことから、学校の取組が保護者に評価されたと考える。今後も積極的に保護者と地域住民の意見を反映した学校運営に期待する。	学校の 対応	○後期は、多くの学校行事や活動があり、地域の方やご家庭の協力を頂く機会に恵まれたことで肯定回答が高くなったと考える。今後も、そのような機会を通して地域の方やご家庭のご意見が汲み取れるよう努める。 ○地域の方の学校行事への参加・出席は、各行事の目的(地域等との交流)や子どもたちの意欲向上にとって欠かすことができない大切なものである。他校との合同の行事でも、それは同様であり、福浦小学校との合同マラソン大会(福浦小コース)の案内もたくさんの方へ周知する必要があった。今後、多くの方が参加対象の行事については、実施案内、各種通信、学校ホームページに加え、地区放送を積極的に活用する。 ○上述のように、ご家庭だけでなく、地域の方との連絡を密にすることで、ご家庭や地域と一体となった学校運営を目指す。	後期	教職員アンケート11-①③	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%
						保護者アンケート⑩⑭⑰⑱	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
						地域アンケート③④⑤⑧	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
						肯定率平均→	100.0%			
五 指教職員の向上	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇前期と同様に肯定率は100%である。2学期も計画に沿って校内研修会を実施することができた。また、校外での研修で学んだこと等を資料を回覧するなどして、共有することができている。教職員それぞれが、自分の職責を果たそうと、日々研鑽に励んでいる。  ◆目の前の児童の課題を把握し、児童の学力向上を図れるよう、引き続き、指導力の向上を目指して、計画的に研修を継続していく。	前期	教職員アンケート10-①②③④	65.5%	34.5%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会 所見	○引き続き、向上をよろしく願います。 ○教職員の皆様方の日々研鑽、頭が下がる。 ○教員の指導力スキルアップのため、児童の課題を把握の上、学力向上に努めていただきたい。	学校の 対応	○毎月1回以上、校内研修を実施している。今後もそのペースを継続するだけでなく、「本校児童の実態に合っているのか」、「それぞれの教員のニーズに応えたものになっているのか」等、検討や見直しをしながら指導力のさらなる向上につなげる。	後期	教職員アンケート10-①②③④	69.0%	31.0%	0.0%	0.0%
						肯定率→	100.0%			

【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

※「4」「3」のポイント色…前期に比べて  
10%以上UP (青色) 10%以上DOWN (赤色)

※評価欄:水色網掛け…前期よりUP 桃色網掛け…前期よりDOWN

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	期	評価資料	アンケート結果(%)			
							4	3	2	1
六 命を守る 安全 教育	⑩健康・安全 教育の推進に努 めるとともに、学 校の安全体制を確 立し子どもの命を 守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている 児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	B	◇前期と同様に肯定率が100%にわずかに届かず、B評価となっている。回答者別で見ると、教職員や地域の回答で4評価が23%ほど増加しているが、保護者の回答では4評価が20%減少していた。後期は、地域との合同訓練に該当する訓練を大洲河川国道事務所の協力で10月に実施した。また、後期は、天候等で下校時の安全が心配される場合は、普段より遠くまで見守り活動を行ったり、下校における安全面での指導を徹底したりした。また、前期からの課題だった抜き打ち避難訓練を実施したが、子どもたちは、状況に応じた対応をしようと試みていた。考えて避難行動を取ろうとしている様子もうかがえた。「シェイクアウトえひめ」や火災避難訓練(消火器の使用法含む)も実施できた。これらの取組を予定通り実施できたことが教職員や地域の肯定回答の内訳の結果の向上につながったと考える。  ◆今期も、自然災害時の本校の施設・設備の安全性に不安を感じている回答があった。学校施設自体、古く老朽化しているのは否めないが、耐震強度は基準をクリアしており、安全である。その点については、改めて教育委員会に確認を取り、保護者・地域の方にご理解を頂けるよう努めたい。また、この考察の作成段階では、不審者への避難訓練(予定)を実施していないので、しっかりと行いたい。	前期	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨	71.0%	25.8%	3.2%	0.0%
		児童アンケート⑩	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%				
	保護者アンケート⑫	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%					
後期	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨	87.1%	12.9%	0.0%	0.0%					
児童アンケート⑩	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%						
保護者アンケート⑫	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%						
地域アンケート②⑥⑨	73.4%	23.3%	3.3%	0.0%						
肯定率平均→							99.2%			
	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	◇肯定率が前期と同様100%でA評価である。月に1回の安全点検を全職員一丸となって実施している結果だと考える。点検時には、どの職員も細かなところまでチェックしており、何か異常がある場合は、直接、管理職に相談するようにしている。  ◆上記のように高評価であるが、否定回答が前期・後期とも12.5%で変わっていない。安全点検の精度向上のために、点検の留意事項の確認や工夫を取り入れたい。	A	前 後	教職員アンケート7-⑤	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	
肯定率→							100.0%			
	安全点検	・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施								
	学校運営協議会 所見	○安全性に対する不安が何なのか知りたい。 ○学校での避難訓練や安全点検等、よくできていると思います。広範囲での地域の方々との合同避難訓練等の機会もあれば、いいなとも思う。 ○私たちの想定を超える自然災害は毎年のように全国各地で発生し、甚大な被害をもたらしている。とりわけ発生確率がますます高まっている南海トラフ地震では、愛南町において最大17mの津波が発生すると予想され、児童への防災学習は必須と考える。このことから、アンケート値のさらなる向上に期待する。	学校の 対応	○⑩の改善方策にある「自然災害時の本校の施設・設備の安全性に不安」とは、地域の方のアンケート項目「自然災害時に、本校施設・設備は、安全であると思いますか」に対する回答であり、具体的な学校施設・箇所に関してのものではない。長年の施設のため老朽化は否めないが、耐震性等、安全面の基準はクリアしており安全性は確保している。ただし、環境面で猿や蜂の巣等、自然豊かなゆえの心配があった、その際はすぐに対応している。 ○地域との合同避難訓練に関しては、本年度は大洲河川国道事務所の主催する地域・学校対象の防災学習に参加した。地域の避難所運営に関する訓練にも、ぜひ参加したい。 ○避難訓練や施設の安全点検は、児童の命に、直接係わるものである。高評価となっているが現状に安心することなく、安全点検の仕方の見直し・共通理解や避難訓練の仕方を絶えず検討し修正していく。						
七 特別 支援 教育 の充 実	⑪個別の指導計 画を適宜作成・ 活用し、指導・支 援を効果的に 行う。	必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解のもと個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇肯定率は、前回と同じ100%の評価である。校内研修会で、特別支援教育校内委員会を年間4回設定し、これまでに3回実施した。学期毎に作成した個別の指導計画をもとに、取組や児童の様子についての情報交換をし、全教職員で共通理解を図ることができた。児童の言動から成長を感じながら、児童の思いや困り感を受け止め、個に応じた対応をすることができた。  ◆指導の手立てが有効であったかについて反省と評価・改善を行い、児童のよりよい支援やよさを伸ばすことができる個別の指導計画を作成していく。学期ごとの特別支援教育校内委員会の中で、全教職員での情報交換や共通理解をしながら、適切な対応や支援をしていく。児童の困り感を軽減できるよう、個に応じた指導法の工夫や改善に努める。	前 後	教職員アンケート12-①②	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%
		肯定率→							100.0%	
	学校運営協議会 所見	○本人も周りも共に成長できる支援を今後も期待している。 ○教職員の皆様方の児童を尊重し見守り大切に指導している様子が感じられる。 ○引き続き、特別支援における適切な教育環境の確保・支援を必要とする子どもに対するより適切な教育を行うため、個別の指導計画を基に児童の困り感の軽減に努めていただきたい。	学校の 対応	○個別の指導計画を基に児童について全教職員で共通理解を図り、学校全体で合理的な配慮等の支援・指導につなげてきた。今後も特別支援教育コーディネーターを中心として個別の指導計画を基に特別支援教育を学校運営の中心の一つに位置付け、個に応じた指導を着実に進める。						